

○水生生物モニタリング調査結果一覧（猪苗代湖（北岸）I・猪苗代湖（南岸）J）

<猪苗代湖(北岸)I・猪苗代湖(南岸)J 水質底質採取項目>

項目 調査地点	一般分析項目		放射性物質分析項目			
	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
J-1	○	○	○	○	○	○

<猪苗代湖(北岸)I・猪苗代湖(南岸)J 現場測定項目>

項目 調査地点	調査緯度・経度		調査日時			水質	底質				その他	
	緯度	経度	日	時刻 (水)	時刻 (泥)	水温 (℃)	泥温 (℃)	性状	色相	混入物	全水深 (m)	透明度 (m)
J-1 (表層)	37.4203°	140.1008°	H30.12.1	11:00	11:20	11.3	11.3	砂	7.5Y 5/3	貝殻、水草	4.0	>4.0
J-1 (下層)												

<猪苗代湖(北岸)I・猪苗代湖(南岸)J 一般分析項目・放射性物質分析項目 水質>

項目 調査地点	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
	緯度	経度	日	時刻												
J-1 (表層)	37.4203°	140.1008°	H30.12.1	11:00	6.6	<0.5	1.3	10.9	11.0	0.06	0.6	<1	0.3	N.D. (0.0013)	0.0065	—
J-1 (下層)					6.7	<0.5	1.4	11.0	11.1	0.06	0.7	<1	0.3	N.D. (0.0015)	0.0058	0.00070

注) N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<猪苗代湖(北岸)I・猪苗代湖(南岸)J 一般分析項目・放射性物質分析項目 底質>

項目 調査地点	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E _{N.H.E} (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm ³)	粒度組成							Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2~75mm) (%)	粗砂 (0.85~2mm) (%)	中砂 (0.25~0.85mm) (%)	細砂 (0.075~0.25mm) (%)	シルト (0.005~0.075mm) (%)	粘土 (0.005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)			
J-1	37.4203°	140.1008°	H30.12.1	11:20	6.8	385	26.3	1.7	3.5	2.702	0.1	0.9	39.0	57.9	2.1	0.22	4.8	16	200	0.16

注) N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<猪苗代湖(北岸)I・猪苗代湖(南岸)J 分析項目 水生生物>

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	特記事項			放射性セシウム(Bq/kg-wet)			Sr-90 (Bq/kg-wet)
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137	
I-1 I-2 (北岸)	湖内 および 長瀬川	37.5047° 37.4995°	140.1143° 140.1409°	H30.12.1	粗粒状有機物	—	—	—	—	水底落葉等	—	0.19	—	—	—	2.8	N.D. (0.76)	2.8	—
J-1 (南岸)	湖内 および 鬼沼周辺	37.4203°	140.1008°	H30.12.1	藻類・植物	—	—	—	—	プランクトン（浮遊藻類）	—	0.014	—	—	—	N.D.	N.D. (2.4)	N.D. (2.1)	—
					軟体動物	腹足	盤足目	カワナ	<i>Semisulcospira libertina</i>	カワナ	30	0.023	成体	—	軟体部	2.1	N.D. (2.6)	2.1	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	ドジョウ	12	0.026	未成魚/成魚	—	—	N.D.	N.D. (2.1)	N.D. (2.0)	—

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、除去して測定した。

※5：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで漉した残留物を指す。

※6：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※7：N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※8：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。